

2015.12.01 MM

## 楽しかった忘年会

われわれ 42 期生東京組の年間 3 大行事の一つである忘年会を 11 月 30 日に決死の覚悟で行う、古希を迎えた年齢のせい、決死の覚悟で臨むが死人はでなかった。ちなみに 3 大行事とは 4 月の新田祭り、7 月の旭陵東京支部総会と年末の忘年会。

先に言うちよくけど文中に出て来る人の名前は順不同・敬称略やから、時々おるんよ呼び捨ては失礼やろとかエエ格好する奴が、のお純平。

参加者は筒井・金川・中田・吉川・小西・坪田・藤垣・守永・野田・古賀・岡村・澤本・五十嵐・増田の 14 名。

今回の参加者は意外と少なかった、常連の村川・近藤・山田・吉崎・平岡・西村らが仕事の都合とか直前の敵前逃亡とかで不参加やっただけ。死んだだけえ来られなかったちゅうのは無かったけえ良かった。



例によって差し入れあり、有り難いことじゃ、これも幹事の人徳やろう。小西から清酒「五橋」知らん人には教えちゃろ、これは山口県の岩国のほうの酒で五橋とは錦帯橋のことやから、西武で買うて来たらしい。

あとボージョレヌーボーが 2 本、純平が高いやつを、増田が美味しいやつを差し入れる。

五十嵐が地元千葉県産のブランド半立産落花生を持ち込む、ママさんにも手土産でもって来るとはなかなかの遊び人じゃ写真には写ってないけど亨チャンから鹿肉・猪肉、坪田からライトボディの赤ワイン。清酒「二重橋」が写っとちよるけど、これは差し入れやないから（会費で購入）。

坪田の音頭で乾杯、さあいよいよ戦闘開始。

今年デビューの坪田は藤垣、五十嵐とは卒業以来の 50 年ぶりで名刺交換している。最初に出てきた料理が鮮魚刺身に、亨チャンが仕留めた鹿肉のタタキ。鹿肉のタタキは初めてだが美味い（何度も言うがはなぶさの旦那はジビエ料理の腕を上げた）。これには赤ワインだとコルクを抜き始めるがうまく抜けない、ワインはワシに任せろと自称ワイン通の坪田・澤本がしゃしゃり出て来るがうまく行かない（ソムリエナイフで

けがをしないかプロの増田は心配しながらも黙って見ている)、小西が力まかせに引き抜くとコルク栓が半分に分れる、再チャレンジして抜く、2本目はスッと抜ける。

純平の「高いワイン」は飲みやすい、増田の「美味しいワイン」は酸味が強い、坪田の「無名のワイン」はコクが無いと三者三様だが2杯目からはみな同じ。

一通り飲むとあとはいつものように敵味方いり乱れての乱打戦。ひとの話は聞かない、言いたい事だけ喋る、誰の話にでも勝手に入り込む、段々大声になる、誰かれ構わず電話する、全員自分が王様だと思っているから始末が悪い、といつもの情景。

年寄りが集まった時の話は年金・病気・孫と相場は決まっちゃうが、我々の話は宇宙規模でなにがなんやか訳判らん、内容に関係なくただ大声で叫ぶように話す。

中でも共通に興味あったのは中田の孫娘のガールズ競輪グランプリ出場の話、ちょっと紹介すると中田の孫娘はプロの競輪選手で女子プロ1期生、初代ガールズグランプリチャンピオンで初代賞金女王でもある。後輩に追い上げられてるがトッププロの一人。

純平が澤本に年金の8兆円損失に噛みつく、年金を運用していることは組織が違うと言うが、あれやこれや大声で騒ぐ。舌好調であまりにうるさいのでマンションの杭打ちの話を持ち出す、そうするとチョットの間は静かになる、まだ酔ってないな。

受話器が3~4回まわって来た、切らんもんやけ亨チャンはもう切ってもええかと言いだす、ひとの迷惑考えんで電話掛けまくる、もう飲んだ時の病気やの、そやけど美人と話すとか何か気分がええと、向田と話しちよるときが一番よかった。



こんど東京に出て来いや、栄チャンは歓迎やけど向田はブチ歓迎やど。

全員集合写真は8時半ごろでお開きは9時半と早く解散となったが、楽しかった、何か知らんが訳もなく楽しかった。同郷の同級生ちゅうのはええもんやのう。

最後に来年4月に本部下関で

古希の祝いを企んどるとの案内があったが楽しみじやのう。

次回まで元気に生きのびようやないか。

おわり